

事務事業名

道路台帳整備

所管課

道路課

【予算科目】

款：土木費 項：道路橋梁費 目：道路橋梁総務費 細目：道路橋梁維持調査費
 事業：道路橋梁維持調査費
 細事業：道路台帳整備費

【施策体系】

その他行政事務（サービス）経費

【事業の目的】

道路法第28条により義務づけられている道路台帳を整備するため、現地確認及び設計図面設計図面を基に道路台帳図面等の修正を行う。併せて、正確な道路現況を把握し、県民に対し正確な道路情報の提供を行う。

【事業の概要】

平成13年度等において実施された道路の設計図面の修正、現地確認を委託により実施した。
 道路幅員等の道路台帳修正 47.1Km

【執行計画の有無】 無

（予算要求時の資料に基づき実施）

【予算の状況】

（単位 千円）

当初予算額 a	補正予算額 b	最終予算額 c(a+b)	決算額 d	不用額 e(c-d)	執行率(%) f(d/c)	備考
14,056	0	14,056	14,056	0	100	決算額は監査調書上の数字
			14,056	0	100	決算額は財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字
			14,056	0	100	決算額は監査で確認した結果の数字

（節別内訳）

（単位 千円）

節	最終予算額	決算額 A	不用額 A	決算額 B	不用額 B	決算額 C	不用額 C
委託料	14,056	14,056	0	14,056	0	14,056	0
計	14,056	14,056	0	14,056	0	14,056	0

※決算額Aは監査調書上の数字、決算額Bは財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字、決算額Cは監査で確認した結果の数字である。

<補正をしている場合はその理由> 該当なし

<一つの節で10万円以上の不用額> 該当なし

<一つの節で10万円以上の超過額> 該当なし

【監査の概要】

1 事務事業を実施するに至った背景

道路及びその沿道については道路の公共用物としてその機能を確実に発揮させるため、私人間の関係には見られない特別の規程が働き、この法律関係が及ぶ領域は常に明確にされていなければならない。また道路管理者が管理事務を円滑に遂行するためにも、道路の区域、構造等の基礎的な事項を総括して把握しておく必要がある。さらに、地方交付税の交付の算定基礎に使われることから、道路の現況を把握することも重視されている。

2 事業開始年度から平成14年度までの実施状況

本県における道路台帳整備は昭和45年から行われている。

毎年、過年度において県単事業施工により道路状況が変状した箇所の道路台帳修正を対象とし、実施している。

(1) 14年度道路台帳修正延長 47.1km

道路幅員の変化が生じ、台帳一式の修正 17.2km
 側溝等で舗装幅に変化が生じ、台帳一式の修正 15.7km
 舗装幅に変化がなく、付属物等に変化が生じ、平面図のみの修正 14.2km

(2) 当年度の道路工事分に関しても一部台帳整備出来るものは台帳整備を委託し、道路状況を把握して県民に対しスムーズな道路行政の情報を効率的に提供している。

＊ 道路台帳委託契約の例

青森県土整備事務所

契約額 819,000 円

契約方法 1 者による随意契約

契約理由(抜粋) 本業務については、発注工事の設計に伴う業務であり、高度の守秘義務を伴うことから民間の業者に発注することは困難であるため、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号の規定により随意契約することとし、また……同様の法人が県内に無いため青森県財務規則第145条本文の規定により相見積書を省略するものである。

契約期間 14.11.8～15.3.25

(他事務所においては指名競争又は随意契約(2者以上の見積)1件により行われている)

3 事務事業の目標とする指標と実績の関係

(平成15年7月31日現在)

区分	指標名 (指標式)			H11	H12	H13	H14	目標年度 (H15)
成果 指標	指標1	県管理道路に対する質問に関する回答率(%) (質問に対する回答/県管理道路に対する質問数*100)	目標	100	100	100	100	—
			実績	100	100	100	100	
活動量 指標	指標2	道路台帳修正延長(Km) (道路台帳修正延長の実績値)	目標	37.67	34.77	51.5	46.1	—
			実績	55.72	39.66	61.41	47.1	
効率性 指標	指標3	台帳整備単価(千円) (事業費/道路台帳整備延長)	目標	—	—	—	—	—
			実績	406	453	266	319	

※県管理道路に対する質問件数 H11年 11件、H12年 10件、H13年 13件、H14年 16件

4 予算の執行状況と事業目的との関係

当事業のために執行されている。

【問題点等】

1 予算執行上の問題点

委託契約において、1者による随意契約を行っているが、その理由が適切でないものがあるため契約方法等を、見直しする必要がある。

2 事務事業執行上の意見等

事務事業評価における成果指標として、県管理道路に対する質問に関する回答率を、指標として設定しているが、事業の目的に沿ったより適切な成果指標を、設定するように努める必要がある。

また、その他の指標についても、一部設定されていないものがあるので、事業の目的に沿った適切な指標を、設定するように努める必要がある。

事務事業名	砂利採取場監視員設置事業	所管課	河川砂防課
--------------	--------------	------------	-------

【予算科目】

款：土木費 項：河川海岸費 目：河川管理費 細目：砂利採取指導費
 事業：砂利採取事業
 細事業：砂利採取場監視員設置事業

【施策体系】

行政管理経費

【事業の目的】

認可されている砂利採取場に対し、採取計画どおり作業が行われているかどうかを確認するため、砂利採取場監視員を設置して、認可期間内に行う立入検査を中心に実施し、監視体制の一層の充実を図り、災害の未然防止を徹底することを目的とする。

【事業の概要】

- ・ 県が委嘱した砂利採取場監視員が、認可されている砂利採取場を定期的に巡回し、違法採取、災害、環境への影響等の現場確認をし、業務報告書に写真を添付して報告する。
 (7区域を2名一班体制で行い、原則月3回(年36回)巡回)
- ・ 砂利採取法の遵守状況を、報告書・写真等により確認し、業者に対する指示を行う。

【執行計画の有無】 有

「青森県砂利採取場監視員設置要綱」により実施

【予算の状況】

(単位 千円)

当初予算額 a	補正予算額 b	最終予算額 c(a+b)	決算額 d	不用額 e(c-d)	執行率(%) f(d/c)	備 考
3,403	0	3,403	3,218	185	94.6	決算額は監査調書上の数字
			3,244	159	95.3	決算額は財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字
			3,218	185	94.6	決算額は監査で確認した結果の数字

(節別内訳)

(単位 千円)

節	最終予算額	決算額 A	不用額 A	決算額 B	不用額 B	決算額 C	不用額 C
報酬	3,226	3,149	77	3,149	77	3,149	77
旅費	85	59	26	85	0	59	26
需用費	71	0	71	0	71	0	71
役務費	21	10	11	10	11	10	11
計	3,403	3,218	185	3,244	159	3,218	185

※決算額Aは監査調書上の数字、決算額Bは財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字、決算額Cは監査で確認した結果の数字である。

<補正をしている場合はその理由> 該当なし

<一つの節で10万円以上の不用額> 該当なし

<一つの節で10万円以上の超過額> 該当なし

【監査の概要】

1 事務事業を実施するに至った背景

平成14年3月末現在、県内で砂利採取登録業者は604業者あり、認可されている砂利採取場は134箇所あるが、砂利採取業者は比較的零細な事業者が多く、災害防止意欲等に欠ける点が見られ、地域住民とのトラブルや違法採取の問題も発生しており、行政による監視のみでは日常的に全県をカバーすることが不可能なことから、これを補完し砂利採取に係る災害の未然防止等を目的として、一般県民による監視員制度が平成12年度に設置された。

2 事業開始年度から平成14年度までの実施状況

(延べ巡回箇所)

平成12年度 7地区 355箇所 平成13年度 7地区 460箇所

参考(平成10年度 県内地区156箇所、平成11年度 県内地区159箇所)

- 平成14年度は、7地区(西郡1地区、三戸郡地区ほか1地区、上北郡ほか5地区について、7班(2名/班)の監視員が月3日、延べ559箇所(箇所)の砂利採取現場を巡回しており、砂利採取に係る災害及び周辺環境に対する悪影響を未然に防止するとともに違法状態などの改善に努めている。
- 県内全域に散在している砂利採取現場を担当職員だけで管理していくことが不可能であったため、それを砂利採取場監視員が定期的に現場を巡回したことにより巡回箇所が増加したこと、また、文書指導等の件数が実施以前に比較し減少傾向にあるなど、効果が表れていると思われる。

※参考

(文書指導件数)

実施前 10年度 77件、11年度 53件
 実施後 12年度 17件、13年度 3件、14年度 6件

3 事務事業の目標とする指標と実績の関係

(平成15年8月7日現在)

区分	指標名 (指標式)		H11	H12	H13	H14	目標年度 (H15)
成果 指標	—	目標	—	—	—	—	—
		実績	—	—	—	—	
活動量 指標	—	目標	—	—	—	—	—
		実績	—	—	—	—	
効率性 指標	—	目標	—	—	—	—	—
		実績	—	—	—	—	

4 予算の執行状況と事業目的との関係

当該事業のため執行されている。

【問題点等】

1 予算執行上の問題点

財政課提出「平成14年度決算統計節別集計表」の決算額と一致していない。

2 事務事業執行上の意見等

評価指標が設定されていないので、事業の目的に沿った適切な指標を、設定するように努める必要がある。

事務事業名	河川・海岸水辺空間整備事業	所管課	河川砂防課
--------------	---------------	------------	-------

【予算科目】

款：土木費 項：河川海岸費 目：河川改良費 細目：河川改良費
 事業：21世紀美しいふるさとづくり事業費
 細事業：河川・海岸水辺空間整備事業

【施策体系】

新プラン計画事業
 彩りある美しい社会／魅力あふれる都市空間づくり／ちょっぴりお洒落で賑わいのある都市空間の創造

【事業の目的】

古くからふるさとの春を美しく彩ってきたオオヤマザクラを活かした「山桜美しき里」づくりと可憐な浜辺の花ハマナスによる「ハマナス香る海岸線」づくりを進め、青森県の風景に新たな魅力を加えることを目的とする。

【事業の概要】

- ・県内の主要河川・海岸の植樹可能地にオオヤマザクラ、ハマナスを植樹する。
- ・本事業は、平成13年度から15年度までの3カ年事業である。
- ・平成14年度における植樹の実績は次のとおりである。
 - ①オオヤマザクラの植樹→青森（牛館川）、弘前（大和沢）、八戸（馬淵川）、五所川原（旧十川）、十和田（桧木川）、むつ（川内川）、鱒ヶ沢（笹内川）の各地域
植樹本数 合計 158本
 - ②ハマナスの植樹 →青森（東田沢海岸）、八戸（市川海岸）、五所川原（国道339号沿い）の各地域
植樹本数 合計1,848本

【執行計画の有無】 無

（13年度予算要求時の資料（13～15年度の3カ年計画）に基づき実施）

【予算の状況】

（単位 千円）

当初予算額 a	補正予算額 b	最終予算額 c(a+b)	決算額 d	不用額 e(c-d)	執行率(%) f(d/c)	備考
15,290	0	15,290	15,290	0	100	決算額は監査調書上の数字
			15,290	0	100	決算額は財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字
			15,290	0	100	決算額は監査で確認した結果の数字

（節別内訳）

（単位 千円）

節	最終予算額	決算額 A	不用額 A	決算額 B	不用額 B	決算額 C	不用額 C
委託料	99	99	0	99	0	99	0
工事請負費	15,191	15,191	0	15,191	0	15,191	0
計	15,290	15,290	0	15,290	0	15,290	0

※決算額Aは監査調書上の数字、決算額Bは財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字、決算額Cは監査で確認した結果の数字である。

<補正をしている場合はその理由>

- 1 9月補正（委託料△480千円、工事請負費480千円）
事業精査による節間の補正
- 2 2月補正（委託料△320千円、工事請負費320千円）
事業精査による節間の補正

<一つの節で10万円以上の不用額> 該当なし

<一つの節で10万円以上の超過額> 該当なし

【監査の概要】

- 1 事務事業を実施するに至った背景
 県はオオヤマザクラ・ハマナス植栽推進については、平成12年度から取り組んでいる。平成13年度には、「21世紀美しいふるさとづくり推進大会」においてあおもりの次代を担う子供達による大会アピール

が発表され、それを受けて「オオヤマザクラ・ハマナス植栽推進行動指針」が策定され、当事業はこの行動指針に基づいて実施している。

- ・H12年2月 オオヤマザクラ1万本計画
- ・H13年6月 美しいふるさとづくり推進大会開催
- ・H13年7月 オオヤマザクラ・ハマナス植栽推進委員会設置
- ・H13年12月 オオヤマザクラ・ハマナス植栽推進行動指針策定
- ・H14年1月～10月 全市町村を訪問し、植栽の協力要請

2 事業開始年度から平成14年度までの実施状況

○河川・海岸水辺空間整備事業に係る植樹計画及び実績 (単位 本、%)

	13年度		14年度		計			15年度		合計		
	計画	実績	計画	実績	計画	実績	割合	計画	見込み	計画	見込み	割合
オオヤマザクラ	500	195	500	158	1,000	353	35	500	200	1,500	553	37
ハマナス	1,200	738	1,200	1,848	2,400	2,586	108	1,200	1,200	3,600	3,786	105
合計	1,700	933	1,700	2,006	3,400	2,939	86	1,700	1,400	5,100	4,339	85

※割合=実績/計画*100(%)

15年度見込みは河川砂防課

○参考 オオヤマザクラ・ハマナス植栽推進に基づく県全体の実施状況 (単位 本)

	12年度	13年度	14年度	小計	15年度 (予定)	合計
オオヤマザクラ	8,056 (6,982)	11,169 (5,821)	10,112 (6,360)	29,337 (19,163)	7,163 (5,382)	36,500 (24,545)
ハマナス	4,037 (3,027)	13,964 (6,446)	19,731 (9,860)	37,732 (19,333)	8,967 (1,745)	46,699 (21,078)
合計	12,093 (10,009)	25,133 (12,267)	29,843 (16,220)	67,069 (38,496)	16,130 (7,127)	83,199 (45,623)

※植栽本数は、県だけでなく、市町村、国・公団等が植栽した本数を含む。

() 内は県植栽本数。

また、県植栽本数には当事業だけでなく他事業による植栽本数も含む。

(文化・スポーツ振興課資料)

3 事務事業の目標とする指標と実績の関係

(平成15年8月7日現在)

区分	指標名 (指標式)			H13	H14	目標年度 (H15)
成果 指標	指標1	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	
活動量 指標	指標2	オオヤマザクラ植樹本数	目標	500	500	500
			実績	195	158	
効率性 指標	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	

本事業における指標(オオヤマザクラ植栽本数)に対する実績についてみると、13、14年度は、指標(目標)本数1,000本に対し353本と達成率が35%に過ぎないものとなっている。ただし、指標に組み入れられていないハマナスを含めると、目標3,400本に対し実績で2,939本と、達成率は86%となっている。

オオヤマザクラについては、実際の予算執行に当たっては、樹齢や支柱、諸経費により1本当たりの経費が膨らんだために目標とする本数に到達できなかったものである。

○参考 オオヤマザクラ・ハマナスの植栽経費 (単位 円)

		予算額	実際の経費 (例)
オオヤマザクラ	植栽経費 (1本当たり)	22,300	52,000
	管理費 (〃)	1,800	5,700
ハマナス	植栽経費 (〃)	2,700	2,900

(「実際の経費」は五所川原管内の例である。)

- 4 予算の執行状況と事業目的との関係
当該事業のために執行されている。

【問題点等】

- 1 予算執行状況の問題点
特になし。
- 2 事務事業執行上の意見等
 - (1) 評価指標の一部が設定されていないので、事業の目的に沿った適切な指標を、設定するように努める必要がある。
 - (2) 本事業によるオオヤマザクラとハマナスの植樹については、一応の成果をみたことから、15年度をもって終了することとしているが、今後は、植樹した苗木の補植や薬剤散布、剪定などの維持管理費が必要となる。特に、オオヤマザクラについては、「見応えがでてくる」までに15年程度かかることから、植栽後の適正な維持管理の継続が必要となる。さらに、維持管理費は、年々増大していくことが見込まれていることから、このための適切な対応について、検討する必要がある。

事務事業名

青森港振興対策事業費

所管課

港湾空港課

【予算科目】

款：土木費 項：港湾費 目：港湾管理費 細目：港湾維持調査費
 事業：青森港振興対策事業費
 細事業：青森港振興対策事業費

【施策体系】

行政管理経費

【事業の目的】

港湾管理者である青森県として、外航船及び内航船の利用促進を図り、もって地域経済の振興に寄与することを目的とした青森港国際化推進協議会に負担金を交付することにより、青森港の利用促進を図る。

【事業の概要】

(青森港国際化推進協議会が平成14年度に実施した事業)

- | | | | | |
|---|-------------|---|---------------------|---------|
| 1 | ポートセールス | ① | ポートセミナーの開催 | 参加者約60名 |
| | | ② | 国内船主・荷主等に対するポートセールス | 43社 |
| 2 | コンテナ航路の誘致 | ① | 海外(大韓民国)物流調査団の派遣 | 参加者14名 |
| | | ② | 青森港利用に関するアンケート調査 | 430社 |
| 3 | クルーズ客船の寄港促進 | ① | 支援助成金の交付 | 5件 |
| | | ② | 歓迎催事の実施 | 9回 |
| | | ③ | 船内見学会の実施 | 6回 |
| | | ④ | 観光アドバイザーの派遣 | 2回 |
| 4 | その他の事業 | ○ | 会報の作成 | など |

(青森港国際化推進協議会 名簿)

顧問 青森県知事・東北運輸局青森海運支局長・日本貿易振興会青森貿易情報センター所長
 構成団体役職名 青森市長・青森商工会議所会頭・青森港振興協会会長・青森県県土整備部長
 社団法人青森観光コンベンション協会会長・株式会社青森銀行代表取締役頭取
 株式会社みちのく銀行代表取締役頭取・青森県信用組合理事長
 財団法人青森県フェリー埠頭公社専務理事・青森港湾研究協会会長
 あおもり信用金庫理事長・青森県港湾空港建設協会青森支部長

【執行計画の有無】 有

「青森港国際化推進協議会の事業計画」により実施

【予算の状況】

(単位 千円)

当初予算額 a	補正予算額 b	最終予算額 c(a+b)	決算額 d	不用額 e(c-d)	執行率(%) f(d/c)	備考
5,000	0	5,000	5,000	0	100	決算額は監査調書上の数字
			5,000	0	100	決算額は財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字
			5,000	0	100	決算額は監査で確認した結果の数字

(節別内訳)

(単位 千円)

節	最終予算額	決算額 A	不用額 A	決算額 B	不用額 B	決算額 C	不用額 C
負担金、補助及び交付金	5,000	5,000	0	5,000	0	5,000	0
計	5,000	5,000	0	5,000	0	5,000	0

※決算額Aは監査調書上の数字、決算額Bは財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字、決算額Cは監査で確認した結果の数字である。

<補正をしている場合はその理由> 該当なし

<一つの節で10万円以上の不用額> 該当なし

<一つの節で10万円以上の超過額> 該当なし

【監査の概要】

1 事務事業を実施するに至った背景

港湾を取り巻く地域の経済と物流については、国内外の産業などと同様、めまぐるしく変化している。これらの様々な変化の中から港湾振興の機会を見出すため、情報収集に努め、港湾利用の促進に結びつけるためのハード・ソフト両面に渡る整備方策や、さらには、港の管理運営方策について、港湾管理者や港湾関係業界と一体になって取り組んでいくための組織体制を構築した。

2 事業開始年度から平成 14 年度までの実施状況

平成 12 年度に青森港国際化推進協議会を設立し、主に新中央埠頭の大型旅客船等多目的岸壁（平成 15 年 8 月一部供用開始）等の利用促進、青森・津軽・秋田北部の物流拠点としての港湾を目指すための調査及びポートセールス等を実施した。

これまでに実施されたアンケート調査結果については、今後の活用方法を検討中である。

主な事業	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度
(1) ポートセミナーの開催	—	1 回	1 回
(2) ポートセールスの実施	2 社	7 社	4 3 社
(3) 支援助成金の交付	—	5 件	5 件
(4) 入港歓迎催事の実施	4 回	8 回	9 回
(5) 船内見学会の実施	—	3 回	6 回
(6) 会報の作成	—	○	○
(7) ホームページの開設	—	○	○

3 事務事業の目標とする指標と実績の関係

(平成 15 年 8 月 26 日現在)

区分	指標名 (指標式)			H12	H13	H14	目標年度 (H27)
成果 指標	指標 1	取扱貨物量 (t)	目標	—	—	—	—
			実績	25,507,516	24,613,533	24,926,412	
活動量 指標	指標 2	協議会のPR活動実施回数 (協議会総会・セミナー・ポートセールス活動・クルーズ船の歓迎催事)	目標	—	—	—	—
			実績	26	30	32	
効率性 指標	—	—	目標	—	—	—	—
			実績	—	—	—	

各年度の事業計画により、港湾の利用促進をPRするセミナー開催やクルーズ船の船会社、物流関係業者にポートセールス活動を実施しているが、ポートセールス活動がすぐに取扱貨物量の増加に反映されている訳ではない。

クルーズ客船の入港実績は伸びている。

旅客船入港実績 平成 12 年度 8 隻、平成 13 年度 9 隻、平成 14 年度 15 隻

4 予算の執行状況と事業目的との関係

当該事業費の目的どおりに執行されている。

【問題点等】

1 予算執行状況の問題点

特になし。

2 事務事業執行上の意見等

(1) 事務事業の指標に目標が設定されていないので、成果を評価できない。また、指標 2 「PR 活動実施回数」については、ポートセールス事業・クルーズ船の寄港促進事業など事業別の目標設定について、検討する必要がある。

また、その他の指標についても、一部設定されていないものがあるので、事業の目的に沿った適切な指標を、設定するように努める必要がある。

(2) コンテナ航路の誘致事業については、海外物流調査や青森港利用に関するアンケート調査の結果を、事業の目的である青森港の利用促進に生かすように努める必要がある。